



## 世界自然遺産に関する

# 新たな財源創設検討委員会

**背景**／ 平成29年3月 奄美群島が国立公園に指定  
令和3年7月 世界自然遺産登録  
市長マニフェスト

“環境保全に特化した、地域独自の財源をつくります”  
コロナ禍で一時落ち込んだ観光客も徐々に回復傾向

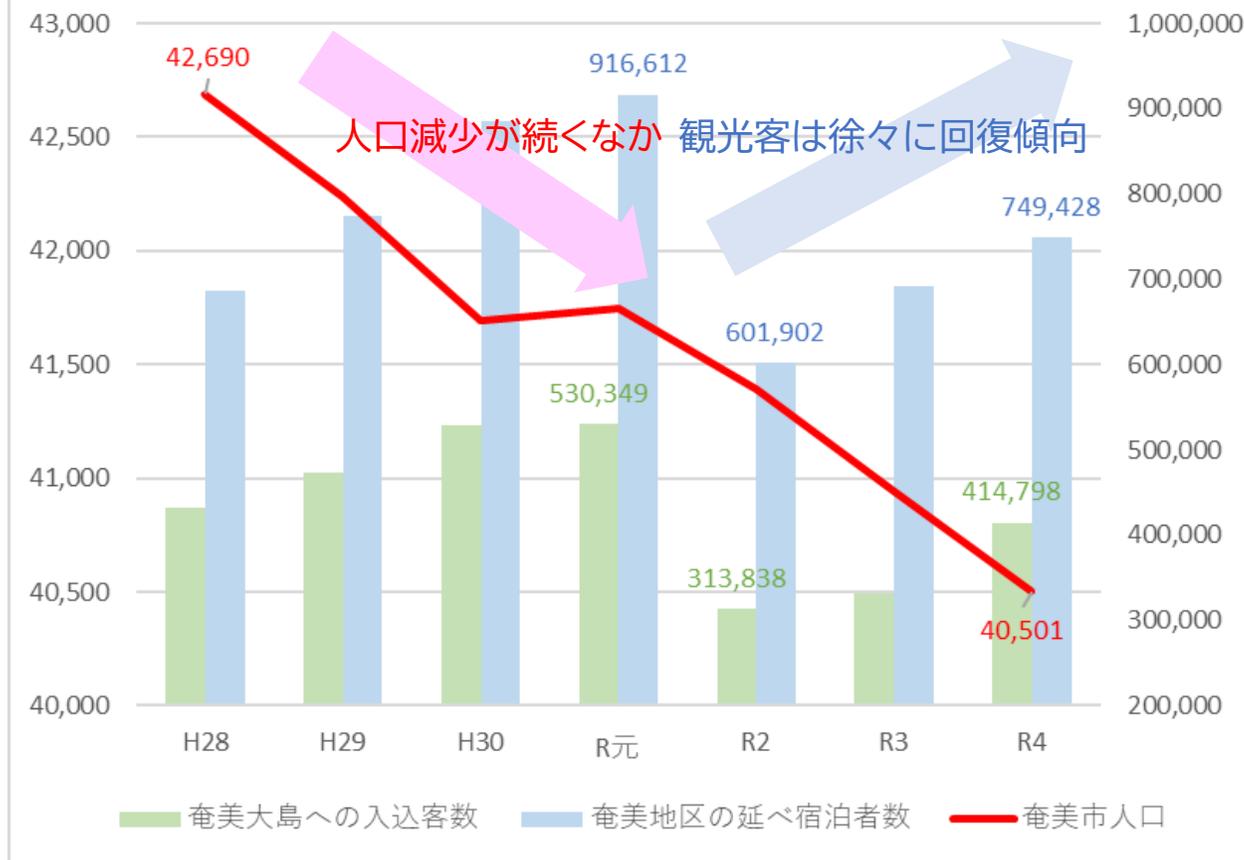
**目的**／ 奄美大島が有する**世界自然遺産の価値を**  
「人類共通の財産」として維持するため、地元自治体に  
求められる行政需要に恒久的に対応できる財源確保  
を幅広く検討する

**委員構成**／ 鹿児島大学法文学部 松田学部長・教授(委員長)  
大正大学 岩浅准教授(奄美市政策アドバイザー)  
奄美大島商工会議所、あまみ大島観光物産連盟、  
奄美市議会議員 ほか行政委員

**開催状況**／ これまで2回開催(2/27第3回開催予定)  
令和6年度も引き続き開催予定

**検討状況**／ 法定外税や協力金など、他**先進地域の事例情報**  
北海道倶知安町(宿泊税)、長崎県雲仙市(協力金)  
**訪問税導入に係る課題**などを協議  
今後は引き続き海外事例情報を収集しつつ、  
**宿泊税を中心に検討をすすめる**

### 奄美市人口と観光関連データの推移



# リュウキュウアユ保護増殖事業

実施主体:奄美大島自然保護協議会ヤジ分会(奄美市・龍郷町・宇検村)

## ◇リュウキュウアユとは

野生のものは、奄美大島にのみ生息しているリュウキュウアユ。1年という短い一生の中で、川と海を行き来して生活している。またその性質上、個体数が安定せず、近年は20,000前後で増減を繰り返し、2017年には急激に減少し、絶滅の危機に瀕した。

## ◆目的

毎年、個体数の変動が大きく常に絶滅の可能性があるため、個対数を把握し生育環境の保全など、必要な対策を講じていくことで種の保全を図る。

## ◇主な事業内容

### ○リュウキュウアユ個体数調査

リュウキュウアユの個体数を調査し、保護対策の重要な指標とする。

### ○リュウキュウアユ養殖事業

養殖技術を確立し、リュウキュウアユの種の保存を図る。

### ○カワウ等鳥類の飛来数調査及び被害防除対策

リュウキュウアユを捕食するカワウ等鳥類の飛来数を調査し、その対策を行う。

### ○水生移入生物分布調査及び駆除

水生外来生物の分布調査を行い、その駆除を行う。

### ○リュウキュウアユを活用した普及啓発

普及啓発イベントを通じて、地域住民の保護への意識醸成を図る。

